

★本記事の読み上げ動画を作成しました！

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください！
動画はこちら→https://youtu.be/Qbc_kgA4S9U



過去の
動画は
こちら



連載

★学校運動部活動と連携するクラブ★

NPO法人 おぐにスポーツクラブYui 山形県西置賜郡小国町

学校運動部活動を巡っては、少子化による生徒数の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5(2023)年から令和7(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1

クラブ概要

理念は「誰もが、いつでも、スポーツで元気に」

山形県西置賜郡小国町は、山形県の西南端、新潟県との県境で両県の県庁所在地である山形市と新潟市のほぼ中間地点に位置しています。また、磐梯朝日国立公園に属する朝日連峰(北)、飯豊連峰(南)という雄大な山並みに囲まれており、原始景観を残すブナの森をはじめ、町全体を覆い尽くすように落葉広葉樹林が広がる自然豊かな人口6,698人(令和6年2月現在)の町です。

当クラブの設立は平成22(2010)年2月、NPO法人登記は平成26(2014)年9月で、現在の会員数は幼児から90歳代までの400名、職員数は常勤スタッフ6名、アルバイト2名、夜警業務員2名の計10名で構成されているクラブです。「誰もが、いつでも、スポーツで元気に」を理念に掲げ、エアロビクス、ピラティス、ラージボール卓球、ソフトバレーボール等の定期教室数が11教室、行政からの委託事業が4事業、小国町民総合体育館および小国町多目的屋内運動場の指定管理業務を受託しています。

2 町からの委託を受け6つの休日部活動を受け入れ

少子高齢化に伴う多くの課題を抱える現状

急激な少子高齢化が進行している小国町では、平成18(2006)年度は1万人だった人口が、令和4(2022)年度には7,000人を割るなど急激に人口減少が進んでいます。中学生の生徒数も平成18(2006)年度は240名だったのが令和4(2022)年度には170名と減少し、既存の部活動の継続が困難な状況になり、部活動の再編成などさまざまな課題が生じています。

国では、文部科学省から学校の働き方改革等の方針が示され、令和3(2021)年度に町から総合型地域スポーツクラブ「特定非営利活動法人おぐにスポーツクラブYui」に休日部活動の地域連携および地域移行について実践研究の打診がありました。当クラブでは、平成30(2018)年度より教育委員会から部活動指導員の委嘱を受けてきた経緯もあり、このような関係で、令和4(2022)年度には、町から「休日における部活動地域移行実践研究」部活動指導業務の委託を受けて1年間実施してきました。

初年度は、当クラブのジュニアクラブの活動として野球部、女子バレーボール部、陸上部の3部が先行実施しましたが、令和5(2023)年度も同様に業務委託を受け、令和4(2022)年度実施の3部にソフトテニス部、卓球部、吹奏楽部の3部が加わり、現在では計6部が土日のいずれか1回(月に2~4回程度)当クラブのジュニアクラブとして活動しています。



野球クラブは、少子化により町外の中学校と合同で練習を行いました



卓球クラブでは、地域の指導者が技術面をわかりやすく指導しています

また、休日の活動には顧問(教員)は参加せず、当クラブ所属の指導者のみで活動していますが、当クラブ所属の指導者と顧問が活動内容を確認するために、週1回定期的に打ち合わせを行っています。

指導者は、町のスポーツ協会と連携し、各競技団体から推薦を受けた者(中学校の部外コーチおよびスポーツ少年団の指導者等)が当クラブの指導者として登録しています。また、当クラブのコーディネーターが学校との連絡業務を行うことで、指導者が指導に専念できるように配慮しています。コーディネーターは、学校との活動方針の確認や、月1回の定期的な活動計画・実績報告等の連絡業務を担っています。コーディネーターの賃金は、部活動指導業務に関わる分は委託料から支払い、その他は当クラブの経費から支払っています。そして、活動に必要な経費とされる指導謝金は、月ごとに各指導者の口座へ振り込み、各部の必要な消耗品、保険料、手数料等も当クラブが委託料の中から支出しています。なお、部員に対する会費(部費)等は検討していますが、現時点では設定していません。

活動場所は、事前に関係機関の調整会議で調整を図り、当クラブが指定管理する町民総合体育館、多目的屋内運動場等の体育施設と学校の一部を社会体育開放施設として利用し、活動しています。施設の鍵は、当クラブ事務所で保管し管理しています。

当クラブは、地域の子どもたちが抱く夢を応援するため、人と人を結ぶ(Yui)懸け橋であることが設立の理念でもあります。関係団体と課題を共有して、ジュニアのスポーツ環境および放課後環境の充実に努めています。



ソフトテニスクラブでは、チームに分かれ地域指導者が丁寧に技術指導を行っています



会員数が少ない女子バレーボールクラブは、地域の指導者がマンツーマンでコーチしています

3 継続可能な休日部活動の仕組みづくりをめざして

当クラブは、人と人を結ぶツールとしての役割を大切に事業を継続しています。休日のジュニアクラブは任意加入ですが、学校部活動に加入している全生徒がそれぞれのクラブで活動しています。

指導者は、競技技術の指導を通して生徒たちの心と体の成長に大きく関わっています。活動指針として学校部活動ガイドラインを遵守していますが、楽しいだけの活動では限界があり、時には試合で勝つことも重要でそこから学ぶこともたくさんあります。今年度までの休日クラブ活動は学校部活動とリンクし競技技術の向上を主に指導してきましたが、当クラブの理念は、豊かなスポーツライフを築くことです。これまでの取り組みと当クラブの考え方を融合させていくことが大切であると考えます。多様な活動が可能な地域クラブは、学校部活動とは違う価値観での活動もできるのではないかと模索していますが、現段階では周辺環境が整っていないので時期尚早です。

これからは、指導者の資質向上を図るとともに、当クラブの目的を各指導者に共有し、それぞれの指導方法を尊重するなど指導者間のネットワークづくりと、ジュニアクラブ活動に参加している生徒の達成感を醸成することをめざします。そして、当クラブは、クラブ指導者とジュニアクラブ会員、保護者、学校、教育委員会との懸け橋となり、休日部活動の地域連携・地域クラブ活動移行を継続できる仕組みづくりの核となるため、優秀な人財・場所・財源の確保に努めます。

関係者へのアンケートによる現状の把握

今年度の活動に関わった生徒を対象にアンケートをとりました。質問内容の「生徒の休日部活動についてどのように考えますか」という質問に対して、「毎週あったほうが良い」が63%、「時々あったほうが良い」が14%、「ないほうが良い」が23%という結果でした。

保護者に、部活動の必要性・意義について質問したところ94%が「必要である」と回答し、活動費用の受益者負担は61%が「仕方ない」、許容額は「月額千円程度」が61%となり、金銭面の負担増には理解不足な状況でありました。そのほか、顧問がつかない休日部活動について「あまり不安を感じない」が88%となり、地域指導者への高い信頼感がありました。

教員には、地域指導者が関わることについて質問したところ、「不都合がなかった」が100%、「地域移行の組織体制への不安がなかった」が100%でした。一方、地域指導者に部活動の地域移行について質問したところ、「賛成」および「わからない」が76%、「指導者があまり足りていない」が61%という結果でした。

これらの結果を参考にして、今後の学校部活動と休日地域クラブ活動の関係を整理していきます。



指導者の熱心なアドバイスにより、陸上クラブの練習にも力が入っています



体育館内で基礎体力の向上に励む陸上クラブの生徒たち

4

未来を見据えてクラブの模索は続く

まずは世代を超えた人々の交流の場づくりを

当クラブは、それぞれの目的に応じて、「いつでも、だれでも、どこでも、いつまでも」スポーツを楽しむことができるステージづくりをさらに充実させて体と心の健康づくりを推進します。

当クラブの登録指導者は、主に休日ジュニアクラブの指導者として活動しています。部活動と休日ジュニアクラブの関係は、5年、10年先を見据え、関係する教育委員会、学校、保護者、スポーツ協会、スポーツ少年団等との連携強化および相互理解を深めることが重要です。

2年間の実践・研究は、スポーツクラブの将来像を考える貴重な事業でもありました。5年、10年先を見据えて、学校が担ってきた中学生のスポーツ活動をどのように考え、どのように地域クラブが関われば豊かなスポーツライフに結びつけることができるのかを関係団体と熟議を深めることによって、それぞれのモチベーションアップにつなげていきたいと考えます。

地域スポーツクラブには、組織的な脆弱^{ぜいじやく}さと財源の問題もありますが、さまざまな事業に積極的に関わり、豊かなスポーツライフとは何なのかの方向を見いだすチャンスとしていきます。

令和6(2024)年度、当クラブは自主事業として中学生「放課後エンジョイクラブ」の立ち上げを計画しています。活動内容は、週3回、学校部活動にない複合種目(スポーツ・文化)活動を予定し、指導者は、地域の達人をお願いして、世代を超えた地域の人々との交流を深め、学校とは違う放課後の居場所を提供していきたいと考えています。活動経費は受益者負担を想定していますが、多くの方々に理解していただきながら「総合型地域スポーツクラブ」として何ができるのか、これからは模索が続きます。

NPO法人おぐにスポーツクラブYui 理事長 舟山孝夫

クラブプロフィール

設立年月日 平成22(2010)年2月21日(平成26年9月19日 法人登記)

所在地 山形県西置賜郡小国町

運営 会員数:400名(令和6年3月現在)、予算規模33,370,178円(令和5年度)

特徴 特定非営利活動法人おぐにスポーツクラブYuiのスローガンは誰もが『Y・ゆかいに！ u・運動で！ i・いきいきライフ！』です。

町民の皆が、誕生してから生涯を終えるまで仲間とともに元気に過ごしたいという願いからこのクラブが生まれました。その願いを今も大切に皆から愛されるクラブづくりをめざして日々活動しています。会員は幼児から90歳代までと幅広い年齢層で、種目も多種目型、自分がやりたいものを選んで参加することができます。教室では笑い声が響き、参加している方々に、私たち職員も元気をもらっています。

連絡先 〒999-1352 住所:山形県西置賜郡小国町大字岩井沢683番地の1
TEL:0238-62-5808 FAX:0238-62-4974
HP:<http://www.oguni-yui.com>
E-mail:oguni-yui@rouge.plala.or.jp

JSP0(日本スポーツ協会)webサイト内に 運動部活動改革 特集ページを公開中！

運動部活動改革の経緯やJSP0の基本的考え方、参考情報をはじめ
スポーツ庁や競技団体、自治体等の取り組み事例を掲載

URL:<https://www.japan-sports.or.jp/tabid1377.html>

